

様式13

会派視察研修計画書

令和 6年 7月 17日

碧南市議会議長 様

会派名 公明党

代表者名

山藤厚雄

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	大竹敦子	
日時	令和6年7月30日（火）	
視察先	三重県鈴鹿市	
研修内容	「5歳児健診について」 「不育症治療費の助成について」	
日程	(視察先到着時間・宿泊先名及び電話も記入) 別紙のとおり	
交通手段	公共交通機関利用 乗降車駅名 (碧南中央駅)	自家用車利用 _____ 台 所有者名 (_____)

(議会事務局記入)

旅費の額	(内 訳)
円	

公明党 視察行程表 7月30日(火)

月日	発駅	時刻	着駅	時刻	適用
7月30日 (火)	碧南中央	9:59	刈谷	10:21	名鉄三河線 知立行
	刈谷	10:37	名古屋	10:58	JR 東海道本線快速 大垣行
	名古屋	11:05	四日市	11:41	JR 関西本線快速 亀山行
	四日市	11:44	鈴鹿	11:56	伊勢鉄道 津行
	昼 食				
三重県鈴鹿市 視察(13:30~15:00) 「5歳児健診について」 「不育症治療費の助成について」					
	鈴鹿	15:16	名古屋	16:03	JR 快速みえ16号 名古屋行
	名古屋	16:16	刈谷	16:35	JR 東海道本線特別快速 豊橋行
	刈谷	16:54	碧南中央	17:19	名鉄三河線 碧南行

会派視察研修報告書

令和 6年 9月 9日

碧南市議会議長 様

会派名 公明党
代表者名 加藤厚雄

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 1人 分の視察研修成果報告書を添付いたします。

参加議員	大竹敦子
日 時	令和 6年 7月30日（火）
視 察 先	三 重 県 鈴 鹿 市
研 修 内 容	「不育症治療費の助成」について 「5歳児健診」について
視察先面会者 又は講師名等	鈴鹿市議会 池上茂樹議長 こども政策部 こども保健課 中川千恵子参事 金丸真理子副参事 子ども家庭支援課 坂崎真一課長 西出佳代発達支援GL
備 考	

※ 相手方から收受した資料の写しを添付してください。

視察研修成果報告書

令和 6年 9月 9日

議員氏名 大竹 敦子

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 令和 6年 7月30日（火）
- 2 視察先 三重県 鈴鹿市
- 3 視察の種類 先進地視察
- 4 視察の成果等

「不育症治療費の助成」について

導入と経緯

平成26年度から、三重県において不育症治療費の助成制度が開始される。

平成元年7年度には、県の産婦人科医会がワーキンググループを開催し、不育症スクリーニング項目を検討する。

平成29年度から、鈴鹿市でも少子化対策の一環として不育症治療費の助成制度を開始する。

予算額

申請は、年に一度で、年度末に行う。予算額は、昨年度3万円、今年度33万円。

周知方法

潜在ニーズはあるが、なかなか申請に至らないケースが多い。そのため、広い範囲で周知を図っている。公共施設窓口、県内の産婦人科医療機関などにリーフレット配布。市のHP、子育て情報誌、全戸配布の「暮らしの便利帳」に掲載。

助成制度の概要

医師が必要と認める診療のうちの保険適用外が助成の対象。

対象経費の2分の1上限10万円（内一県が2分の1上限5万円）

令和3年度より、所得制限（400万円）を撤廃した。

相談体制

令和年4月1日から、「こども家庭センター」設置に伴い、児童福祉機能と同じ部局に子ども保健課に新設し、より連携を強化した。子ども保健課では、面談スペースを設け、ゆっくり相談できる体制を作り、保健師や助産師などの専門職にもつなげられるようにしている。より専門的なより支援が必要な場合は、専門の医療機関、県の不妊専門相談センターを案内できるようにしている。

提言

碧南市においても、来年度より「子ども家庭センター」が設置される予定で進められている。不妊症や不育症で悩む方々はなかなか声を出しにくい状況があり、潜在的なニーズがあると言われている。「子ども家庭センター」の設置に合わせて、不育症の治療費の助成をすることにより、その周知を広くすることへの治療しやすい体制を作るべきである。対象となる方々への丁寧な対応・支援が行われることが望まれる。

また、不育症スクリーニングによる早期の発見も有効な手段として取り入れていただきたい。

「5歳児健診」について

導入に至った経緯

3歳児健診では、集団場面での苦手さを見つけにくく、3歳児健診以降、就学時健診まで健診がない。また、その時点で発見できても、就学までに十分な支援を行う時間がない。そして、発達に関する相談が多くなり、すわってられないなど、小学校に入ってからの問題が増加していた。これらの問題を解決するために、5歳児健診での早期発見、適切な支援、保護者の不安を解消することを目的に5歳児健診を実施した。

5歳児健診の方法と流れ

鈴鹿方式と言われる鈴鹿市で行なう5歳児健診は、健診会場に集める方式ではなく、子どもの在籍園に保健師、保育士、教員、心理士など職員が出向き、満5歳児（4歳児クラス）を対象に健診を実施する。在宅の子どもは、市役所で実施する。医師による監修を健診後に行う。園で行うことにより、普段の様子が見られる。

健診を実施するにあたり、保護者に健診を実施する旨を連絡し、結果は、封書で、要保護児童のみでなく全ての保護者に通知する。

集団観察では、朝の集まり、自由遊び、ルールのある集団遊び、絵本の読み聞かせ、片付けなどの様子を見る。個別健診では、三重県医師会5歳児健診マニュアルに沿って、対

人反応、緊張、不安、落ち着きなどを見る。

健診後、要保護児童の保護者に都合を聞き、面談を行い、年3回園での観察とフォローを行う。そして、「すずっこファイル」を保護者に配布し、健診の様子、その後の支援計画を記入する。また、要保護児童は「すずっこスクエア」に通い、ソーシャルスキルトレーニングで社会性を身に付け、要保護児童の保護者には、関係機関の紹介や情報提供するなど、集団への馴染みにくさや苦手など、何らかの課題や心配を持つお子さんとそのご家族の相談やサポートをしている。

提言

鈴鹿方式と言われる鈴鹿市で行われている5歳児健診は、碧南市の各園を巡回して子ども達の様子を観察して、発達障害などの早期発見を目的とした健診方法と同じであると思われるが、碧南市では、支援方法として「ICF」という方式を利用し、発達障害の子どもへの支援をしている。

鈴鹿市では、健診から、フォローまでの流れを明確にして、保護者の理解を深めながら要保護児童の支援を進めている。また、在宅の子どもにもしっかりと健診を実施している。本市での発達障害児の把握、支援の方法についても、保護者との連携を図り、進めていただいているかを確認し、鈴鹿方式も参考に、事業の効果をあげられるようにしていただきたい。